

広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第一回運営委員会 会議録

日 時 平成 24 年 6 月 8 日(金)15 時 00 分～16 時 50 分

場 所 まちづくり市民交流プラザ 南棟 4 階協議室

出席者 (委 員) 中島委員、波多野委員、東委員、弘中委員 ※栗屋委員は 3 月末で退任
(プラザ) 田村館長、新谷

議事及び会議要旨

議事 1. 広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会委員の選任について

平成 24 年 3 月末で退任した委員の後任については、事務局が選任することで承認を得た。

○現在委員の定数は 5 名である。このうち学識経験者から選任していた栗屋委員が 3 月末に退任された。後任の選任について相談したい。また、副委員長は委員の互選となっているが、ここも空席となっている。こうしたところのご意見を交換していただきたい。

・フェスタなどの行事で活動している会からの選任はどうか。

○フェスタには実行委員会が、まちづくりボランティア人材バンクには活性化委員会がある。

・そういうところの代表はいないのか。

○中島委員が人材バンク活性化委員会からの選任である。フェスタの実行委員会は期間が限定されており、選任することは難しい。

・ファシリテーター養成など、プラザ事業の講師は学識や経験もあると思うがどうか。

○適任者と思う方は現在広島には不在である。

・学識経験者だと大学の先生と思うが、知識だけでなくある程度活動に関わっている方がよい。

・一番入ってもらいたいのはプラザをよく利用する利用者である。利用者を代表する方が選任できたら運営委員会は活性化するのではないか。この場合は日常の細かいことを改善していく場だと思う。

・これから先のことを考えると、若い人に入ってもらいたい。

・フェスタの時、若者の企画力というのはよく見えるが賛否両論もある。

・施設は中高年向きだけではないので仕方ない。

・利用者の実態としてはどうか。やはり中高年が多いのではないか。

○アンケートからも中高年世代が多い。以前もお話ししたが年齢層は公民館と同様である。

・若い方と言っても、実際の利用者は中高年が多い。若者の団体はほとんど入っていない。

・講座でも若い人が入っているのは子育て支援だけである。

・平日昼間は若い人は仕事をしており利用できない。

○定数は 5 人以内であるが、選出母体の根拠は必要である。一般的に学識経験者は中立な立場である。必要でないということであれば欠員というよりも学識経験者からの選任ではなく、むしろ若い方でよく利用されている方から選任するという方法もある。

・他の委員会の委員に学識経験者という立場でなっている。他にも学識経験者と名前はあったがほとんど来ない人もいる。学識経験者というだけでなく、実体験と実態を知っている方がよい。

・運営委員会そのものが何のために、どういう方向でいくのか。規約にあるように市民参画を推進し、開かれた施設運営を主目的とするなら、利用者の声を聞かないで開かれたものは無い。

・そういう意味では、波多野委員はそういう立場で発言されていると思う。

・運営委員になった以上、批判的に見なければいけない。

- ・この委員会は遠慮なく意見を出すことができるし、今の状況で若い人が入ってくると視点も変わるのではないかと思う。
 - ・今の意見を集約してもらって事務局に一任する。それでいいか。
- 一同 異議なし

議事 2. 平成 23 年度事業報告について

平成 23 年度事業について事務局から報告を行い、事業評価等について意見が交わされた。

- ・調査・研究事業で、収集した資料がプラザ事業へどんなことに参考になったか。
- 団体支援事業などのテーマや手法などが参考になっている。
- ・託児サービスを希望する参加が少なかったとあるが、どういう事業の参加者だったのか。
- 生涯学習事業のパソコン講座だけである。
- ・パソコンに関する講座のうち、PCサロンは 30 回開催となっているが参加者はどうか。
- パソコンを 20 台開放して実施しているが、ほぼ定員の人数は来ている。
- ・レベル的にはどうか。入門というイメージか。
- 基礎学習を中心に実施しているが、最近は高度なものを求める方も来られ、ボランティアスタッフで対応できない事がある。
- ・普通の PC 講座は 8 回ものが多い中、他の回はわかるがこの回だけはわからないなど、単発でわからないことをカバーしようとする人がいるからである。そこで、有料でいいのでそういう高度な内容に対応する単発講座を企画してはどうか。
 - ・公民館グループの成果発表事業があることは有意義である。公民館同士、区をまたがって連携する機会はない。連携することで刺激を受け、公民館の住民サービスの向上につながると思う。そのために果たすプラザの役割は大きい。年間 2 事業となっているがどんどんやってほしい。
 - ・ここの存在を知ってもらう機会にもなっている。
 - ・情報誌らしくは魅力あるか。
 - ・特集記事は読み物としてよい。新聞やテレビでも簡単に紹介されるものもあるが、記事では活動の目的など詳しく取り上げられ、団体の様子がよくわかる。
 - ・ここで紹介されていたボランティアの方に、催しに来てもらったらみんなに喜んでもらえた。
 - ・記事を見て、ボランティアを活用していただければありがたい。
 - ・プラザ事業の紹介が少ない。プラザが向こう 4 カ月実施する事業の紹介にもう少し力点を置いたらどうか。プラザが実施していることが見えてこない。
 - ・人材バンクの記事で言えば、これを経験した子どもの様子や参加者の声を入れたりすると、よりボランティアが活かされた紹介になると思う。
- ご意見について、公民館との連携はプラザが目指す役割だと認識している。それに関連した事業をこれから取り組もうとしている。
- らしくであるが、今、情報誌というのは行革による見直しでほとんどが廃版になっている。これを何とか大切にしないといけないと思っている。単なる情報誌だと廃版につながってしまうから、そこには魅力あるような記事、むしろ人づくりをテーマにした啓発誌、これを読んできっかけ作りになるような、むしろそこにはセカンドライフを充実している人が登場して、メッセージ、エールを贈ってくれるような情報誌としたい。
- ・特色を出すことで人物の紹介をするのであればもう少しページがほしい。

議事 3. 平成 24 年度事業計画について

平成 24 年度事業については主に新規の取り組みにつて説明を行い、各種事業について意見が交わされた。

・相談会についてお聞きするが、23 年度が 860 件という相談件数の管理をクリアしたということであるが、余暇活用相談会に関して言えば、件数は相談員にとっては問題ではない。ひと月、ふた月に一人でも二人でも、次のステップに移行していかれたらそれが一番の成果である。人数を多くこなすことが目的ではない。件数を管理目標値にされるといかなものかと思う。

○数値目標は内容に関わらず広島市から示されているもので、事業として実施している相談会も、日常業務で対応している相談も、一緒に件数として扱われ数値化されているので、事業としての相談会の評価は受けにくい。平成 26 年度末までの指定管理期間では数値目標の見直しは無い。

・相談件数を管理することには全く意味が無いと思う。その認識を確認しておきたい。
・まなびカフェ（生涯学習相談会）では、かなり詳しいアンケートをとっている。アンケートを取る時に、今後これをどのように生かすとか、自分の考えがどう変わったかとか、そういうところを書いてチェックしてもらおうようにして、数値化することで、何人どうしたというよりも、こうしたことを評価する考え方になってほしい。

議事 4. まちづくり市民交流フェスタ開催結果について

5 月 19・20 日に開催した「まちづくり市民交流フェスタ」の開催結果を報告し、今後の開催に向けて意見が交わされた。

・スタッフは黄色い T シャツをそろえていたが、ブース参加者は特に何もなかった。来場者から見て、何かスタッフとわかるような共通項があると、わかりやすくてよい。次で工夫してもらいたい。
・もう少し PR が必要であった。当日も、南棟駐車場でもちつきをやっていたが、スタッフが多かった。子ども神楽も半分は関係者であった。館内放送するなど呼び込みに工夫が必要であった。
・フェスタ入館者数の何割がこの催しを目指してきた人かわかるか。フェスタを目的に来た人が多いのかどうなのか。その当たりがわかると、PR の仕方も変わってくると思う。目的を持って来場する人を増やすのであれば、公民館などを利用して PR しなくてはならないし、少し分析が必要と思われる。

議事 5. その他について

○これからの運営委員会のスケジュールとして、次は 10 月と 2 月頃の年 3 回とし、1 回 1 回を密度の濃いものにしていきたい。昨年までは 4 回開催していたようであるが、3 回位がはっきりと議題を上げやすい。今後このような形で進めさせていただきたい。緊急な事があれば臨時に委員長にお願いして招集をかけていただきたいと思っているので、その際にはよろしくお願したい。

・運営委員会は年 3 回開催することとし、今回は調整の結果 10 月 10 日(水)午後 2 時からの開催とする。

閉会